



広報

イキシア

2021年5月

86号

イキシアには「団結して事にあたる」という花言葉があります。やっと関心を集めるようになったこの精神保健の分野に理想の福祉を実現する為にあなたの知恵と力をお貸しください。



コロナ禍に負けるな！
皆の「笑顔で」
乗り越えましょう！！



『コロナと想像力』 理事長 寺田 一郎

前号で、「新型コロナ感染対策でメディアに登場する都道府県の知事の業務執行スタイルが透けて見えて実に興味深い」と書きました。

その評価は直ぐに現れました。現役対新人という構図ではありませんでしたが、県民が何を期待しているのか、が明確に示されたのが千葉県知事選挙でした。三月二十一日に投票が行われ、前千葉市長の熊谷俊人氏（四十三歳）が百四十万票以上を獲得し、他候補を圧倒しました。新知事は昨秋にはワナーホームを訪れて地域の福祉関係者と意見交換を行っています。コロナ禍の障害者福祉に千葉県らしい取り組みがされることを期待しています。

新型コロナ関連では、今やワクチン接種が重要課題となつていきます。接種に優先度があるということも（反対している訳ではありませんが）すごいことです。まず、医療関係者、次に高齢者、それから高齢者施設等入居者及び介護職員です。さて、精神障害者はどうなるのか、と思つて

いたら優先接種の対象となる「高齢者施設等の入居者と職員」には障害者総合支援法による共同生活援助事業（グループホーム）が含まれていることがわかりました。働いている職員も同じです。但し、入居施設であることが条件なので通所の就労継続支援施設や相談支援事業所の利用者や職員は対象になりません。

三月二十一日で緊急事態宣言は解除されましたが、一年前の四月には一回目の緊急事態宣言が発出されました。この時には政府の指針に従ってワナーホームでも新規利用者の受入れ停止や通所制限などを行いました。

法人運営の点からは利用者への支援と財政がどんな影響を受けるのか、ということが大きな問題でした。さらに利用者や職員が感染した時、どうするのか、ということが最優先課題でしたが、なかなか県の方針が示されず現場ではやきもきする日々が続きました。財政面に関しては事務方の試算では、四ヶ月の四ヶ月間で五、四〇〇万円の減収

が報告されています。一年間にするととても数字になりました。しかし、その後厚労省は、通所系や相談系事業での電話等による支援に対して報酬を算定することとし、両事業での減収は最小限に抑えることができました。また、雇用調整助成金や新型コロナ緊急包括支援交付金などによって法人の出費増を手当てすることができ、二〇二〇年度の決算見込みでは、新型コロナの影響はあまり受けないで済みました。

この新型コロナの感染拡大のなかで、私たちは大きな教訓を得ました。

第一は、未経験のことでも知恵を出し合つて出来る限り起こるべき場面を想定することです。第二に、対応は迅速であることです。

視点は大きく変わりますが、想像力という点では、宮口幸治著『ケーキの切れない非行少年たち』（新潮新書）が示唆に富んでいます。

児童精神科医である筆者は、「医療少年院には、認知力が弱く、（丸い）ケーキを

等分に切ることができない少年たちが大勢いた。その少年たちには共通する特徴があった」と書いています。

① 認知機能の弱さ

② 感情統制の弱さ

③ 融通の利かなさ

④ 不適切な自己評価

⑤ 対人スキルの乏しさ

これらに加えて身体的不器用さが指摘されています。認知機能の弱さに見たり聞いた想像する力が弱い、ということになります。「見る力が弱いと相手の表情を読み取ることができないし、聞く力が弱いと相手の言っていることを正確に理解することが出来ません。目の前で起こっていることの背景を想像できないと適切な対応ができません。特に時間の概念が弱いと将来のことが想像できず、努力ができないということですが」

ワナーホームの職員に聞くと、コロナ感染だけではなく初めての業務を担当することにたまたま、過去の記録を読んだり先輩に聴いたり、出来るだけ情報を収集した上で起こり得る場面を想像してその業務を処理する、というような処理が求められることがありますが、想像力が弱いとなかなか着手すらできないことになります。

学生はオンライン授業が続いています。本来ならキャンパスライフを謳歌しているはずが学友との交流もできない、公園で飲み会でもするとたちまちマスクに叩かれることになります。テレワークも然りです。認知機能の重要な要素である五感をかなり制限されますので、本当に理解し合うことが出来るのでしょうか。テレビ会議システムも多くの会社で採用されていますが、マスクをしたのテレビ会議では参加者の表情は全くわかりません。認知機能が制約されている会議ですので、形式的な結論になることが怖いと思います。

学生の授業もテレビ会議も、人間と直に接触することができないので、人間関係を作るための訓練ができないことは大きな課題だし、本当に情報の理解ができていないのか、とても疑問です。

話題が拡散してしまいました。先に引用した少年たちの特徴は、実は発達障害や統合失調症の特徴とも重なります。この辺りについて臨床データを重ねるならば、私たちの日常的な支援方法も変わってくるのではないかと、私たちが取り組むべき大事な課題であろうと思っています。

2021年度 事業計画

本部拠点 （居住系事業所）



統括施設長
寺田 一郎

居住系事業では、利用対象者の高齢化、重度化が進行しています。各事業所の創設時より支援量が増え、特に日常生活面での支援が大きな比重を占めるようになっていきます。

【だいち】
だいち→ファミリーユークロワール（新ホレブ）という利用者の棲み分けが崩れてきたとも言えます。

公的支援を受けない新ホレブ寮は現在の運営体制では収支の改善が見込めないなど、本部拠点における居住系施設の運営方針の見直しが求められ、それに応じた支援内容が必要とされています。コロナウイルス感染防止、感染時の対応、拠点内の相互応援体制などの経験を生かした対処をします。

【新ホレブ寮、クロワール、ファミリーユークロワール】

新ホレブ寮は、数年間定員割れをしている状況のため、今後の展開を考える時期となりました。

クロワールは、日中サービスマン型として本部拠点の最重度の利用者を対象とする役割を担い、日中のサービス、夜間の支援体制を維持し、障害支援区分三以上の利用者を受け入れます。利用者の余暇活動に工夫をし、「今だからこそできること」を見出せるよう支援します。

ファミリーユークロワールは、重度・高齢化が進み、居室清掃や洗濯、同行支援等の介助が増えてきたことに対応します。

【だいち】

比較的軽度の、自立度の高い利用者を対象としてきましたが、個別支援が必要な利用者が徐々に増え、だいち内で住居の移動を行い、ローリエには宿直室を設けて支援の密度を上げます。



本部拠点 （日中活動系事業所）



統括施設長
高木 由佳

本部拠点日中活動系事業所は、パンプキンハウス、障害者就業・生活支援センター山武プリオ、ワークショップおらさと、ワークショップおおあみ、ホレブデイサービスセンターの相談系・通所系事業所です。事業毎の役割を活かし、連携・協力体制の下、運営いたします。

○別館の活用

新型コロナウイルス感染症対策として、利用者、職員の密を避けるために、昨年度別館（ホレブ寮傍大網白里市細草3215-119）を整備いたしました。一階は障害者・就業生活支援センター山武プリオ、二階をワークショップおらさと作業室とし活用いたします。

○ホレブデイサービスセンター作業棟建設

ワークショップおらさと、ホレブデイサービスセンターの役割を明確にして、見守り、介護が必要な方で生産活動を希望される場合は、ホレブデ

ィサービスセンターへ切り替えていただけるよう作業棟を建設し、生産活動の準備を進めます。

○委託作業の安定化と協働体制
ワークショップおらさと、ワークショップおおあみ、ホレブデイサービスで、委託作業を共同受注し、生産、納品等協力し、作業の安定化を図ります。また、個別送迎を充実させることで、新規利用者の受け入れを拡大いたします。

○業務の効率化と人材育成

新たに相談記録・請求システムを導入いたしました。円滑な活用を進め、業務の効率化を図ります。また、研修及びOJTにより人材育成に注力します。





千葉拠点



統括施設長
山岡 功平

千葉拠点では昨年の十一月から短期入所事業を開始し、身体・知的の拠点に続いて千葉市三ヶ所目の「地域生活支援拠点事業」の委託を受けました。地域生活支援拠点は、障害のある方の重度化・高齢化や親亡き後を見据えて、相談や緊急時の受け入れ、体験の機会や地域の体制づくりなどをを行う事業です。短期入所の利用者も少しずつ増えており、今後も市民の皆さんの期待に応えたいと考えています。

鎌取相談支援センターは精神科病院からの地域移行支援に力を入れており、昨年度は合計三十名の退院を支援しました。これは全国的にみてもトップクラスの実績で、今年度もこのペースで支援を展開していきたいと思えます。また千葉市から委託を受けている「千葉市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業」では、千葉市全体の精神障害者支援の促

進に向けたコーディネートやアドバイザーとしての役割が求められています。市民や学生向けの啓発事業や、ピアサポーターの育成やそのフォローアップなども行います。そして千葉拠点でも四月からピアサポーターを雇用しました。当事者としての経験とピアの専門性を十分に活かして、ピアならではの支援を提供したいと思えます。

外販が出来ずに売り上げがダウンしてしまいました。しかし一方で隣接する下総精神医療センターの玄関先での週一回の販売を始めることができました。今年度は下がった売り上げの挽回と、パン作業だけでなく、印刷作業、環境整備作業、受注作業いずれも売り上げ増を図って、利用者の工賃の向上を目指したいと思います。



グループホームのフジエールは地域移行支援の退院者を受け入れています。今年度は三年の利用期限を迎える利用者が複数おられる事から、その次の住まいとしての三つ目の住居（ホーム）の増設を計画しています。ワークショップ鎌取（ペジブル鎌取店）は、昨年度コロナ禍で、パンの近隣への

最後に、嬉しいことに四月に新卒の職員が二名千葉拠点に来てくれることになりました。現在の千葉拠点には入社して三年から五年位の若い中堅職員も増えつつあるので、その中堅職員たちに新卒の二人に丁寧な指導してもらい、千葉拠点の人材の層を厚く、またチームワークも強固にしていきたいと思います。

柏拠点



統括施設長
大久保 夏樹

「ずっと柏で暮らしたい」と言ってもらえる地域づくりを目指して

障害者の重度化・高齢化を踏まえた地域移行・地域生活

の支援、相談支援の質の向上、

効果的な就労支援、医療的ケア

児の障害児支援の推進、感染症等への対応力の強化と、

令和三年度報酬改定にて対応

された課題は、柏拠点の実施

する事業および解決したい課

題と合致しています。それぞ

れの事業所の機能を強化しな

がらも、地域ネットワークや

地域特性を生かし、福祉サー

ビスのこれまでの概念にとら

われずに展開していきたいと

思います。また、二〇〇六年

にたんぽぽセンターからはじ

まった柏拠点ですが、事業規

模が大きくなり、当初六人

だった職員も五十名を超える

大所帯となってきました。組

織が大きくなっても、コミュ

ニケーションを大切に、自己

決定やプロセス、学びあい支

え合いを大切にするワーカー

ホームらしさが失われないう、管理体制や情報共有システムなどを工夫していきたいと思ひます。

重点課題

1 医療的ケア対応「すくすくハウス」設立

特に、柏市北部に不足する医療的ケア、重症心身障害児者対応可能な通所事業所の整備および通所施設だけでは補いきれないレスパイトの機能、医療連携機能の強化を目指し、新施設の設立を準備します。

2 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの充実

地域生活支援拠点たんぽぽを中心に体制づくりを進めているシステムをさらに充実させ、課題抽出から計画立案に取り組んだ昨年度に引き続き、実際の取り組みにつなげ



ます。特に注力したピア活動の実績を生かし、当事者ご家族を巻き込んだシステム構築を目指します。

3 地域企業・農家との連携、福祉喫茶の運営による就労支援の充実

これまで関係性を築いてきた地域のネットワークをさらに活用し、地産の素材を使用した特産品の製造販売や、休耕地活用に貢献する農福連携の取り組み、福祉喫茶など既存の事業所のフィールドを超えて障害者の働く機会、地域社会とのつながりづくりに取り組みます。



長生拠点



主任
橋本義隆

長生拠点は長生地域生活支援センターを主軸に、長生ブリオ・ワークショップ茂原・ぶらりの四事業所で構成されており、今年度も昨年同様拠点全体で一体的な事業運営を行います。また、地域ニーズの調査・検討を重ね今後の事業展開を検討します。

【長生地域生活支援センター】

計画相談は、長生圏域内の要ともなっているため、引き続き新規利用者の受け入れを行い計画作成・モニタリング共に件数増を目指します。地域移行支援は、長生圏域内の精神科病院や他機関との連携を図り昨年度に引き続き実績を上げていきます。地域活動支援センターは、地域のニーズに添えて土曜日の開所を再開します。コロナ禍でも行える外でのプログラムなど、憩いの場の充実を図ります。

【長生ブリオ】

担当整理や役割分担の明確化を行いより効率的な支援を行う事を目指します。企業開

拓や就労移行支援事業所などとの連携を密にし、就職件数と定着率の向上を目指します。また、ピアサポート活動等は、ZOOMを活用して開催するなどコロナ禍でも実施出来るよう工夫し、就労前の障害者と就労中の障害者との交流を図り、相互の自信に繋がるよう支援します。

【ワークショップ茂原】

昨年度は外壁の改修工事を行った他、茂原市の町おこしの一環として行われている「茂原スタープロジェクト」に参加し茂原のつじじ酵母を使用したパンを売り出し、新聞に取り上げられました。売り上げ向上につながることを見込んでいます。

報酬改訂により、B型事業所は平均工賃と報酬とが連動



することになったため、ペジューブルの売り上げを伸ばし工賃アップを目指します。また、利用者の受入れ幅を拡げるため軽作業を取り入れましたが、スペースの狭さが課題となっており、新たな作業場の確保を早急に行います。

【ぶらり】

今年度は利用者への自立支援を充実させ、グループホームから地域生活へと移行することを目指します。新型コロナウイルスの影響で集団でのプログラムは、感染状況に応じて検討しますが、個別支援の中で自立生活に向けて必要な技術を身に付けられるよう支援します。長生圏域でワーカーホームのグループホームに求められている支援とは何かを把握・検討し、今後の事業展開につなげていきます。



伊勢新聞 本紙面より抜粋 © 伊勢新聞社 伊勢新聞社 伊勢新聞社 伊勢新聞社 伊勢新聞社

障害児者が安心して暮らせる未来をつくる「すくすくハウス」設立へ

社会福祉法人ワ・アール・エム 伊勢市の「すくすくハウス」



医療的ケアを必要としても、重い障害があっても安心して働き、暮らせる未来のために

建設費 12,259,000円 建設予定地 伊勢市
定員数 事業所7名 381人 2021年3月31日



すくすくハウスプロジェクト



医療的ケアを必要としても、安心して育ち暮らせる未来を、医療的ケアを必要とする子ども達の増加という社会課題を背景に設立された「すくすく」に通う子ども達は、今、新たな課題に直面しています。高等部卒業を迎えた後に、通い過ぎす場や、働く場が、柏市、特に北部には足りないのです。二〇二〇年春、思いもかけない新型コロナウイルス感染症の不安に悩まされることとなりましたが、すくすくっ子たちの成長は待つてくれない！と、医療的ケア対応「すくすくハウス」設立プロジェクトを開始しました。

私たちがだけでこの課題を抱え込まず、声にして、地域の方々にこの社会課題を伝えはじめると、たくさんの方の応援をいただくようになりました。活動を始めたときには、「何とかしなきゃ」という思いだけで、用地も資金もなにもありませんでしたが、ご縁あって、広い用地が見つかりました。まだまだ解決しなればいけない課題は山積みですが、「すくすくハウス」設立に向けて、計画は具体的になりつつあります。二月から開始したクラウドファンディングは、目標



(大久保)

金額の一〇〇万円を達成し、三五〇名を超える方々のご支援をいただきプロジェクトを終えることができました。地域の方々の温かさを感じるとともに、この大きな応援を笑みある未来につなげる責任を強く感じていきます。目標達成の日、理事長がご報告とお礼として寄せてくれたメッセージにはこう綴られています。
「思い起こせば三十七年前にワナーホームの最初の施設である「ホレブ寮」(精神障害者社会復帰施設)の創設を発表した時、「無謀だ」「ドン・キホーテ」夢の話だ」などと心配されました。でも二年後にその夢は実現しました。
そして、すくすくハウスが文字通り夢に向かって大きな第一歩を踏み出しました。でも今回の夢には、実に多くの方々のご支援がありました。このご支援は当面の資金的なご支援にとどまらず、将来の運営においてこそ大きな支えとなることと存じます。また、完成後の運営にさまざまな困難が伴うことは当然のこと。でもその時に、今回寄せられた皆様の熱い思いが、どんなにか職員と利用者の励みに



(前澤)

すくすくステップ 事業開始



医療的ケアを必要とする子ども達の増加は、日本全体の課題で、その数は増加していますが、それでも全体の人口と比べれば少なく、その声はなかなか社会に伝わらないう状況があります。ご自身の置かれた状況を誰もわかってくれないと感じてしまうとき、その子育ての中でご家族が一人に感じてしまうとき、We Are Not Aloneの言葉を法人名に据える私たちの活動と想いが希望となることを願ってやみません。
医療的ケアを必要とする子ども達が、その必要とするケアや障害によって区別されることなく、安心して育ち暮らせる未来をつくるためのこの活動を応援くださり、心より感謝いたします。引き続き応援くださいますように、どうぞよろしくお願いいたします。

四月よりすくすくはすくすくジャンプとすくすくステップに分かれました。すくすくステップは小学部四年生から中等部までが対象です。「すくすくハウス」に向けた準備の一つで、二〇二二年の秋を目標にこの二事業所が「すくすくハウス」に引越す予定です。
現在、職員全員が「すくすくハウス」に向け準備を行っています。クラウドファンディングや寄付活動において、法人やイキシア会の皆さまのご協力に大変感謝いたしております。これからも子どもたちにたくさんのお楽しみを届けていきます。

山武ブリオ 事務所移転

住所：大網白里市細草 3215-19
TEL：0475-71-3111 FAX：0475-71-3123



三月三日より山武ブリオの事務所を移転し、新たに業務を開始しました。

ホレブ寮に隣接している独立した建物で名称は「別館」としました。二階建ての建物で二階部分はワークシヨップのクラフト作業を行っています。

一階は山武ブリオで使用し、以前より陽当りの良い、広い面談室を作りました。

広いキッチンスペースもありコロナが落ち着いたら、皆で料理をしたりカフェスタイルのピア交流会も開催したいと考えております。

今まではパンプキンハウスと事務室を共有していましたが、山武ブリオの職員だけで一室を使用している為、情報共有がしやすくなったように感じています。

四月から新しい職員を迎え気持ちも新たに活動して参りたいと思います。

(杉本)

各事業所からのお知らせ

わたげワークス

わたげワークスでは、生産活動や地域づくり活動の強化を目指し、今年4月から就労継続支援B型の定員を14名から24名に変更しました。就労移行支援は引き続き定員6名です。合計の定員31名体制となることで、より多くの障がいを持たれている方々に働く場を提供することができます。

昨年度はコロナ禍ではありましたが、利用者の皆さんとともに、地域での畑作業、近隣の清掃、カフェの運営、柏落語会など地域との交流を大切に活動してきました。引き続きコロナウイルス感染防止に努めつつ、多くの利用者さんに将来の可能性や働く喜びを見つげられる場所でありたいと考えています。また、必要な人に必要な支援が届けられることを願い、今後も地域や支援機関の方々とのつながりの輪を作っていけたらと思います。よろしくお願ひします。

(斉藤)

だいち

定員変更について

だいちでは2021年度より定員を32名から30名に変更します。

体験利用や体調不良者を24時間対応できるようにだいちとローリエに1室ずつ予備室を設けることとなりました。少しずつ利用者の高齢化、ワーカーホームの居住の場として重度の方のニーズに対応できるよう手厚い体制を整えていきます。

(武藤)

ホレブデイサービスセンター

通所介護休止について

このたび、2021年3月31日をもって、ホレブデイサービスセンター通所介護事業を休止いたしました。

2018年10月より、生活介護事業(障害者総合支援法)及び通所介護事業(介護保険法)の共生型サービスとして運営してまいりましたが、今後、本体事業である生活介護事業の充実を図るために、通所介護事業を休止する決断となりました。利用されていた皆さまにおかれましては、ご迷惑をおかけすることとなりましたが、ケアマネージャー様にご相談の上、他事業所の見学、体験利用等を進めていただき、新たな通所先を決めていただきました。

それぞれの事業の対象者及び事業目的等の違いを痛感し、今後は、ワーカーホームの専門性を打ち出した事業運営をしてまいります。ご理解、ご協力の程、よろしくお願ひいたします。

(高木)

わーなー日記 《ぶらり》

長生拠点にあるグループホームぶらりは、二〇一九年に開所し二年が経過しました。現在は男女十名の利用者が入居しています。昨年度は新型コロナウイルス感染症対策を徹底して行うと共に予定していたイベントやプログラムを自粛するなどの対応に追われた年度となりました。

そんな中、余暇活動が行えずに利用者の皆さんも、ストレスを感じる事も多く、毎月行っているミーティングで何か楽しめるものはないかと利用者や職員で話し合い、「映画が見たい！」と意見が出され、毎月映画鑑賞のプログラムを取り入れました。



ぶらりには会議室があり、ミーティングや「アラジン」や「ロッキー」など世代により様々ですが、皆楽しみにして参加しています。また、利用者が持っているDVDを貸し合うコミュニケーションも生まれました。コロナ禍の中、まだ油断出来る状況ではないですが、感染対策と創意工夫を凝らしたプログラムを実施し、ぶらりでの生活が楽しいと思えるホームにしたいと思えます。(橋本)

わーナーホームの主な動き

- 《一月》
 - ・年始レク／ホレブ寮
 - ・すすくく神社初詣／すすくく初詣／すすくく北柏(北星神社)
- 《二月》
 - ・新型コロナウイルス感染拡大により緊急事態宣言発令より行事実施できず
- 《三月》
 - ・お花見ウォークラリー／エクラス(北柏周辺)
 - ・さくらウィーク(三月二十九日～四月五日)桜を見ながらの散歩やティータイムでの春菓子の提供／たんぼぼセンター
- ・理事会
- 《四月》
 - ・辞令交付



イキシア入会のお願い

イキシア会は利用者とそのご家族及び一般有志からなるわーナーホームの支援団体です。活動においてご理解をいただき、ご支援・ご協力を賜ります様宜しくお願い致します。

広報イキシアは年三回(一月・五月・九月)発行されます。

《会費》

賛助会員 三,〇〇〇円(年)
正会員 一〇,〇〇〇円(年)

編集後記

新型コロナウイルス感染拡大から二年が経過しますが収束になりません。そんな中、私は時代に乗り観葉植物を購入しました。どうやって育てるのかを調べながら、ふと視線の先に「緑」があるということにホッとしています。新年度もどこか癒しを見つながら乗り越えていきたいと思います。今月の「イキシア」もよろしくお願いたします。(A)

収支決算書

自2020(令和2)年4月1日
至2021(令和3)年3月31日

イキシア会 単位:円

支 出		収 入	
科 目	金 額	科 目	金 額
振込料	32,746	会 費	920,000
事務用費	1,000,000	(168名)	
小 計	1,032,746	小 計	920,000
次期繰越	6,830,421	前期繰越	6,943,167
合 計	7,863,167	合 計	7,863,167

発行所 **わーナーホーム
イキシア会**

千葉県大網白里市細草3215

電 話 0475-77-2100(代)

U R L <http://www.wanahome.or.jp>

発行人 寺田 一郎